

【解説文】岐阜県博物館開館50周年記念特別展「尾張徳川家ゆかりの美濃刀」開催

岐阜県博物館は1976年5月5日の開館から今年で50周年を迎えます。

これを記念し、4月24日（金）から6月28日（日）まで、尾張徳川家ゆかりの大名道具など、武家文化の日本有数のコレクションを有する徳川美術館との初の共同企画展「尾張徳川家ゆかりの美濃刀」を開催しますので、お知らせします。

特別展では、徳川美術館の収蔵品のうち、これまで展示される機会の少なかった美濃・尾張の刀44点を一挙に公開し、そのうち12点は本邦初公開という大変貴重な機会となります。

「美濃刀」は、切れ味のよさ・使い勝手については高く評価される一方、由緒・伝来を伴う名刀・名物に隠れ、美術的価値は見過ごされがちでした。

そのような中、今回は、戦国期に実用刀として天下人の地元で鍛錬された「美濃刀」にスポットを当て、現代に継承される刀剣産地として広く知られる関市で公開することとなりました。

併せて、開催期間中は徳川美術館学芸員による講演会や、刀剣をきれいに撮影するコツを学べる講座、「柄巻き」と呼ばれる柄部分の装飾の技術を学べるワークショップなど、多彩なイベントを予定していますので、ぜひこちらもご参加ください。

なお、開催に先立ち、4月23日（木）には、開場式を行います。式には、尾張徳川家第22代当主で徳川美術館館長の徳川義崇氏のほか、地元関市の富野小学校の児童の皆様にもテープカットに参加いただき、会場に華を添えていただきます。

本企画展を機に県民の皆様、全国の刀剣ファンには、ぜひ足を運んでいただき、本物の魅力に触れていただくとともに、2か月にわたる展示期間を通じて「美濃刀」の素晴らしさが再評価されることを期待しています